

氏名	三橋利晴
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4463 号
学位授与の日付	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Maternal working hours and early childhood overweight in Japan: a population-based study (日本における母親の就労時間と幼児の過体重の関連：人口ベースの研究)
--------	--

論文審査委員	教授 荻野 景規 教授 森島 恒雄 准教授 吉永 治美
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

母親の就労が子供の体重増加にあたる影響について関心が寄せられているが、その関係については議論の余地が残されている。我々は、岡山県の中山間において母親の労働時間と未就学児の過体重の関連を調査した。2008年に中山間のM町に住む全ての未就学児の親に対して質問紙を送付し、母親の労働時間・子供のBMIおよびその他の共変量を聴取した。子供の過体重の有無は国際肥満会議の基準に従った。ロジスティック回帰モデルで子供の過体重に対するオッズ比とその95%信頼区間を計算した。また、兄弟姉妹間での相関を考慮し、generalized estimating equationを用いたオッズ比の推定を行なった。母親が無職である事を基準とした時の、8時間未満労働における調整後オッズ比(95%信頼区間)は0.28(0.09, 0.93)で、8時間以上では0.71(0.19, 2.68)であった。母親の就労が8時間未満であれば、小児の肥満傾向のリスクが減少する事が示された。母親の就労時間が適正になれば、小児の肥満傾向のリスクが減少すると期待される。

論文審査結果の要旨

母親の労働時間と未就学児の過体重の関連を検討するため、2008年に岡山県の中山間のM町に住む全ての未就学児の親に対して質問紙を送付し、母親の労働時間・子供のBMIおよび、その他の共変量としての子供の要因、母親の身体及び社会的要因を聴取した。ロジスティック回帰モデルで子供の過体重に対するオッズ比とその95%信頼区間を計算し、兄弟姉妹間での関連も考慮した。母親が無職である事を基準とした時の、8時間未満労働における調整後オッズ比(95%信頼区間)は0.28(0.09, 0.93)で、8時間以上では0.71(0.19, 2.68)であった。すなわち、母親の就労が8時間未満であれば、小児の肥満傾向のリスクが減少する。以上より、本研究は、母親の就労時間と小児の肥満が、関連性があることを見いだした価値ある研究である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。

審査概要:

既にできあがった資料の分析ではなく、最初から事業計画に参加し、共変量として子供の栄養状態や母乳の摂取等の因子を加えるべきであり、またそうでないとこの結論には至らないとする意見があった。